

甲賀市レッドリスト 2022 哺乳類 概要

◇ 甲賀市の哺乳類（哺乳類相および地理分布の特徴、解明度）

- 甲賀市に分布する哺乳類は、外来種を含めて約 38 種がある。市内でモグラ目 5 種、コウモリ目 6 種、サル目 1 種、ウサギ目 1 種、ネズミ目 13 種（聞き取り情報によるスミスネズミ、ドブネズミを含める）、ネコ目 9 種、ウシ目 3 種が分布すると考えられる。以下に市内の哺乳類について、①山間部の鈴鹿山脈と信楽山地、②丘陵部の水口町、甲南町、甲賀町の大半の地域、③平野部の住宅地や農地が多い地域、に大別して説明する。
- 大型哺乳類は移動能力が高いことから、市内に広く分布している。イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルは、山間部の鈴鹿山脈と信楽山地を中心に生息するが、里山の樹林の荒廃により（藪など身を隠せる場所が増加し）、水口町、甲南町、甲賀町の丘陵部にも頻繁に現れるようになった。イノシシとニホンザルは人家背後の樹林に年中生息する個体群があり、ニホンジカも冬季には丘陵部や河川敷を通過して市街地付近に現れ、農作物への加害が深刻である。甲賀市によると、2015 年度にニホンザル 76 個体、イノシシ 938 個体、ニホンジカ 2141 個体が有害鳥獣として捕獲された（甲賀市獣害対策課）。ニホンカモシカは土山町の鈴鹿山脈の溪谷を中心に生息すると考えられるが、近年、水口町内や信楽町内の丘陵地で確認される事例が相次いでいる。土山町の山間部の以前からの生息地では、近年の目撃個体数が減少傾向と聞くことから、ニホンジカの激増にともなって餌資源に困窮したニホンカモシカが、丘陵部へ押し出された状況にあるのか懸念される。ツキノワグマは隣接する日野町に近年の記録はあるが（高柳，2005）、市内など鈴鹿山脈の南部には分布しない状況であったと考えられる（阿部，2003；高柳，2005）。しかし近年、鈴鹿山脈の北部（米原市、多賀町、東近江市）に、岐阜県揖斐郡や伊吹山方面から侵入した複数個体が定着するようになり、多賀町では 2015 年 5 月に人が被害を受けたことで全国的なニュースになった。2021 年 12 月には、甲賀市信楽町に隣接する京都府和束町で体長約 1 m の若いツキノワグマがワナに捕獲されたことも新聞等で伝えられた。今後、市内に出現する可能性があり、注意が必要である。
- 中型の哺乳類では、ネコ（食肉）目のタヌキ、キツネ、テン、イタチ類（ニホンイタチ、シベリアイタチ）は市内に広く生息すると考えられる。テンは山間部に限らず丘陵部にも分布し、水口町内の夏季の目撃例がある。水口町内ではニホンイタチ、シベリアイタチの両種が見られるが、分布の詳細は不明である。アナグマの目撃記録は、鈴鹿山脈と信楽山地に限定されたが、近年になって、水口町の丘陵部でもアライグマの罠にかかった個体が確認された。ニホンノウサギも市内の山地から丘陵部に広く分布する。地元の農家の話では、以前はもっと普通に目撃されたが、近年は平野部の河川敷や丘陵地の水田周辺では、ほとんど見かけなくなったという。ニホンリスは山間部での確認記録が多いが、水口町内の丘陵地の公園（みなくち子どもの森園内）においても一年を通じて目

撃されている。ムササビは土山町、信楽町の山間部の麓の社寺林で生息が確認されている。

- 小型の種が大半であるモグラ目、コウモリ目、ネズミ目については、市内の生息種や分布状況について不明点が多い。モグラ目については、コウベモグラが丘陵部に広く確認される。山間部には、今回の改訂前にミズラモグラの分布が土山町で確認された。またアズマモグラの生息可能性があると考えていたが、2017年に土山町、信楽町の山間部で調査した結果、両地では小型化したコウベモグラの成体が得られた。このことは、市内の山間部までコウベモグラが分布し、アズマモグラは分布しない可能性が高いことを示すと考えられる。また、ヒミズは丘陵地から山地まで記録が散見される。ニホンジネズミは甲南町と土山町で数少ない記録があるのみである。カワネズミは生息可能性があり、近年も釣り人から目撃情報を得たが、2007年、2012年、今回のレッドリスト調査でも確証が得られていない。コウモリ目については、イエコウモリ（アブラコウモリ）が住宅や農地の多い平野部を中心に広く見られる。その他には、土山町と甲賀町のダム・貯水池の排水トンネル内にユビナガコウモリ、モモジロコウモリ、コキクガシラコウモリが確認されており、土山町の鈴鹿山脈の溪谷や鉾山廃坑や崖下の窪みでテングコウモリ、キクガシラコウモリが確認されている。ネズミ目については、全体的に情報が不十分である。人間に身近な場所にすむ種では、ハツカネズミ（住宅地内でゴキブリ捕獲用の装置に引っかかった）やドブネズミ（水口市街地の野洲川沿いで目撃された）の記録がある。クマネズミについては2022年、水口町内の建物内に侵入して、トラップに捕獲された個体が確認された。農地や河川敷の草地を中心に生息する種では、カヤネズミは特徴的な巣によって、丘陵地（水口、甲南、甲賀）や信楽山地の農地周辺を中心に確認記録が散見される。しかしながら、農地付近のススキ、チガヤ草地など定期的に手が入る半自然草地が減少している。加えて、草津～甲賀にかけての横断的な調査では、カヤネズミの確認された草地が、それぞれに孤立しており、次年度には草地そのものが消失しているケースが約8%あった（澤邊・夏原，2015）。ハタネズミは甲賀町内の草地で記録された。森林に生息する種では、ヒメネズミが鈴鹿山脈の樹林で、アカネズミが丘陵・平野部の農地・雑木林などで記録された。スミスネズミは鈴鹿山脈に生息の可能性が高く、土山町の溪谷で調査を実施したが未記録である。近年は、鈴鹿山脈でニホンジカの増加が著しく、土山町内で森林の下層植生がほとんど見られない場所が多い。植物の根茎を主食とするスミスネズミの生息環境として、非常に厳しい現状と考えられた。
- 特定外来生物であるヌートリア、アライグマ、ハクビシンが市内で記録されている。アライグマは2000年代初めから水口町の丘陵部で確認され、現在では市内全域で記録され、甲賀市鳥獣害対策室では2015年度に225個体を捕獲駆除した（甲賀市獣害対策課）。ハクビシンは2000年代中ごろから記録があり、現在は市内全域で記録される（同じく2015年度に40個体が捕獲駆除された）。ヌートリアは野洲川沿いに2000年代後半から、それらしき目撃記録があり、2011年には野洲川沿いの甲賀町で自動車に轢かれた個

体が撮影された。さらに 2017 年には同時に複数個体が目撃されるようになり、繁殖の可能性が出てきた。2017 年 2 月に甲賀町の杣川で 2 個体が継続的に目撃されており、同年秋には水口町のため池でも複数個体が捕獲された。2022 年 11 月には水口町野洲川のワンドでも目撃された。

- ・ 阿部(2003)によると、日本では絶滅したオオカミが古くは市内の土山町に生息したこと、同じく絶滅したカワウソも市域に隣接する旧甲西町（現在の湖南市）岩根に生息したことが古い文献から確認できる。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 哺乳類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する（あるいは分布すると推察される）哺乳類を対象とした。今回、新たに絶滅種を掲載することとし、ツキノワグマのように市内に定着しているか不明な種については、要注目種として扱った。
- ・ 市内全域での哺乳類を対象とした調査は不十分であり、市域の状況を正確に把握した上でのレッドリストと言えない部分がある。特にモグラ類、ネズミ類、コウモリ類については調査不足である。カワネズミ、スミスネズミ、ツキノワグマについては確実な記録が認められないが、情報収集の意味から要注目種とした。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は生息地が数カ所（2、3カ所）以内もしくは生息域が非常に狭い。「絶滅危機増大種」は生息地が数カ所より多いが、生息地が確実に減少している種。「要注目種」は良好な環境を指標する、減少傾向が予想されるが情報不足である種とした。「地域種」については、市内に広く分布し親しみやすいというだけでは掲載しないこととした。
- ・ 外来種については、対象としなかった。
- ・ 哺乳類の種名（和名・学名）は「世界哺乳類標準和名リスト 2021 年度版」（川田ほか，2021）を参照した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 哺乳類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数（甲賀市レッドリスト 2007，2012，2017 と比較）は以下表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 哺乳類 掲載種数

| ＼ | 2022 | 2017 | 2012 | 2007 | 備考 |
|---------|------|------|------|------|-------------|
| 絶滅種 | 1 | 1 | 1 | 0 | オオカミ記録は文献より |
| 絶滅危惧種 | 7 | 5 | 5 | 4 | |
| 絶滅危機増大種 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 要注目種 | 9 | 9 | 9 | 4 | |
| 地域種 | 0 | 0 | 0 | 3 | |
| （合計種数） | 20 | 18 | 18 | 14 | |

- ・ 主な掲載種として、絶滅種はオオカミ、絶滅危惧種はミズラモグラ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コキクガシラコウモリ、ニホンモモンガ、ニホンカモシカ、絶滅危機増大種ではキクガシラコウモリ、ムササビ、カヤネズミ、要注目種ではニホンジネズミ、ニホンリス、ハタネズミなど、地域種は該当が無かった。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 哺乳類からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種 7 種（前回 5 種）では、新たにミズラモグラとニホンモモンガを追加した。いずれの種も滋賀県においても分布記録が非常に限定される種であり、甲賀市においても絶滅危惧種のカテゴリーと判断した。
- ・ 絶滅危機増大種 3 種（前回 3 種）について変更はない。
- ・ 要注目種 9 種（前回 9 種）について変更はない。
- ・ 今回のレッドリスト掲載種のうち大半が樹林的な環境に生息する種であった。哺乳類の多くが夜行性で昼間は樹林や穴など森林環境に潜む種が大半であることによる。コウモリ類は安定して生息できる山中の洞穴等が限定されており、ムササビ、ニホンモモンガは大木の樹洞や裂け目の穴などが減少して（穴を掘りやすい古木や大木が減少して）いる。一方、草原に生息する種類はカヤネズミ、ハタネズミの 2 種で、河川に生息する種はカワネズミ 1 種であった。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 哺乳類 今後の対策・留意点

- ・ 絶滅危惧種のコウモリ類は、ねぐらとなる洞穴（人工トンネル、鉱山廃坑含む）や岩の隙間などの存在が重要であり、これら種の繁殖地、越冬地、一定期間の生息地と認められた場所と周辺環境を保護することが求められる。
- ・ 要注目種については、今後も環境指標的な種と、情報不足の種を分けて考える必要がある。
- ・ 特にネズミ類については、市内に生息する種が十分に把握されておらず、これら小型哺乳類の地道な調査継続が望まれる。

【参考文献】

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 (1994) 日本の哺乳類。財団法人 自然環境研究センター(編), 195pp., 東海大学出版会, 東京。
- 阿部勇治 (2003) 鈴鹿山麓の“けもの”と人びとのかかわり。高橋春成(編), 滋賀県の獣たち, pp.13-54., サンライズ出版. 彦根。
- 千々岩 哲 (2008) 滋賀の社寺林におけるムササビの分布。リス・ムササビネットワーク ニューズレター“リスとムササビ”, 21: 2-11.

- 環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>
(2020年3月27日公表、2022年9月閲覧).
- 河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保健志 (2010) みなくち子どもの森の哺乳類. みなくち子どもの森自然館(編), みなくち子どもの森年報告第5号(平成17~20年度), pp.48-50.
- 川田伸一郎・岩佐真宏・福井 大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽 創・姉崎智子・横畑泰志 (2021) 世界哺乳類標準和名リスト2021年度版 <<https://www.mammology.jp/list/index.html>>.
- 甲賀市獣害対策課. 有害鳥獣年度別捕獲実績 <<http://www.city.koka.lg.jp/item/9430.htm>>
(2018年1月閲覧).
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館 (2007) 甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp., 甲賀市, 甲賀.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館(2013)甲賀市レッドリスト2012
<<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>> (2018年1月閲覧).
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館(2018)甲賀市レッドリスト2017
<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>> (2022年9月閲覧).
- 澤邊久美子・夏原由博 (2015) 景観構造がカヤネズミの生息率におよぼす影響. 応用生態工学, 18 (2): 69-78.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会 (2021) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.
- 高柳 敦 (2006) 哺乳類. 日野町史編さん委員会 (編), 近江日野の歴史 第1巻 自然・古代編, pp.168-191., 滋賀県日野町, 日野.

【哺乳類担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）

阿部 勇治（多賀町立博物館）

中谷 成一（滋賀県生物環境アドバイザー）

中村 久美子（滋賀県立琵琶湖博物館）